



最終講義

政治コミュニケーション研究を自省する

慶應義塾大学名誉教授

大石 裕

著書

1. 『地域情報化—理論と政策』 世界思想社、1992年
2. 『政治コミュニケーション—理論と分析』 勁草書房、1998年
3. 『ジャーナリズムとメディア言説』 勁草書房、2005年
4. 『メディアの中の政治』 勁草書房、2014年
5. 『批判する/批判されるジャーナリズム』 慶應義塾大学出版会、2017年
6. 『国家・メディア・コミュニティ』 慶應義塾大学出版会、2022年
7. 『コミュニケーション研究—社会の中のメディア（第5版）』 慶應義塾大学出版会、2022年

1 はじめに—いくつかの前提—

- ① 「出来事・問題・社会運動→報道→世論喚起→政策」という政策過程
 - ・ 民主主義実現の有力なルートの一つ、政治（特に市民）参加論の文脈。
 - ・ SNSの機能に関する評価は両義的、民主主義の民主化（広範な政治参加）、社会の分断。
- ② 「利益認識（問題の存在）→利益（意見）表明→利益実現」という政策過程のもう一つの見方
 - ・ 「利益実現」の段階は可視的。
 - ・ 「利益表明」が困難。予期される反応、同調圧力、支配的世論の権力行使。
 - ・ 「利益認識」が困難。問題発見・認識自体が不調。
 - ・ 政策過程における、ジャーナリズムの機能（促進、抑制）。

③「現実 (reality)」の社会的構築・構成

- ・ 客観的現実（社会的出来事）／象徴的現実（ニュース）／主観的現実（社会レベルでの認知・態度・行動）。
- ・ 実際には、三つの「現実」の絶え間なく相互作用。
- ・ 象徴的・主観的現実が客観的現実に及ぼす影響。

④言葉の権力作用

- ・ 言葉による、出来事の名づけは、意味づけ、評価と関わる。その基盤に価値観が存在。
- ・ 争点・政策の名づけ。他の争点・政策との連関（同時代、歴史的）という問題。

- ・ 「連想の文法」による、知識の秩序化・制度化。ニュースは、出来事を「編集」、「物語化」。
 - ・ 公平・公正・中立・客観的な報道は可能？「偏向報道」は不可避。偏向報道こそジャーナリズムの真髄。偏向（事実の編集、出来事の物語化）とフェイク（誤った事実）は全く異なる。
- ⑤ **社会の中のメディア、メディアの中の社会**
- ・ ニュースの生産過程で発動するニュース・バリュー、社会の支配的価値と連動。

2 南アルプススーパー林道建設反対運動

- ◇**研究対象期間**：1970年代前半、『政治コミュニケーション』第5章
 - ・「出来事・問題・社会運動→報道→世論喚起→政策」という政策過程を参照（①）。

◇**地域紛争・住民運動の図式**

- ・地域紛争・住民運動の一般図式
 - 「政府（国・地方）・開発企業」対「地域住民」。
- ・南アルプススーパー林道建設反対運動の事例
 - 「政府（国・地方）・開発企業・地域住民」対「市民運動」。

◇社会運動とマス・メディア

- ・ マス・メディア報道による世論喚起、尾瀬の環境保護運動と連動、市民運動を支援。資源としてのメディアと世論。
- ・ 公害・環境問題に対する関心の全国的な高まり。
- ・ 「マス・メディア依存型運動」、市民運動は一定の成果。
- ・ 地元紙の報道量は少ない。

3 リゾート開発

◇**研究対象期間：1980年代後半～90年代前半、**『政治コミュニケーション』第8章

- ・「利益認識（問題の存在）→利益（意見）表明→利益実現」という政策過程（②）

◇**ナショナルトラスト運動**

- ・和歌山県田辺市の天神崎、北海道斜里町の知床半島での土地買取運動が有名。天神崎付近のリゾートマンション建設。

◇ リゾート開発、リゾート法制定とマス・メディア

- ・リゾート法制定時における環境破壊に対するメディア・世論の関心の低さ（不可視の権力）。
- ・ジャーナリズムの不作為
- ・原因としての「政策文化」（生活環境の改善、地域振興、産業構造の転換）。

4 英国ホロコースト・メモリアル・デイ／沖縄慰霊の日

◇研究対象期間

- ・ホロコースト・メモリアル・デイ：1990年代後半～2000年代前半
『ジャーナリズムとメディア言説』第6・7章
- ・沖縄慰霊の日：2000年代後半→『メディアの中の政治』第7章
- ・「現実（reality）」の社会的構築・構成③／言葉の権力作用：名づけ、意味づけ＝評価、価値観との関わり④

◇「ホロコースト否定言論法」制定の動きとマス・メディア

- ・言論表現の自由と規制、近年はネット上のコメント

- ◇ **集合的＝国民的記憶の制度化：場所（記念館など）と時間（記念日）記憶の形成・再生産をめぐる権力作用**
 - ・ ホロコースト・メモリアル・デイ：1月27日（アウシュビッツ解放）記憶の選別（アルメニアの虐殺）、帝国戦争博物館（ロンドン）、アンネフランクハウス。
 - ・ 沖縄：6月23日（沖縄日本軍降伏）、4月28日（サンフランシスコ講和条約発効）、5月15日（日本に返還）、沖縄県平和祈念資料館（沖縄県営平和記念公園内）の展示。

- ◇ **アニバーサリー（記念日）ジャーナリズム、メディア・イベントの意義と政治性**

5 水俣病事件報道

◇研究対象期間：1960年代

- ・『メディアの中の政治』（第5章、第6章）：社会の中のメディア、メディアの中の社会（社会の中の個人、個人の中の社会）（⑤）

◇水俣病事件の「物語化」とニュース・バリュー（被害漁民の運動）

- ・①対立と紛争
- ・②報道の公平・中立・客観性（水銀説以外の説？）
- ・③紛争の発生・展開・終結（1959年末の見舞金協定）
→ここでもジャーナリズムの不作為

◇水俣病事件報道停滞期（1960～68年）の「水俣報道」

- ・ チッソの労使紛争が中心、労働運動（安定賃金闘争）が水俣病事件を後景に。
- ・ 紛争が紛争を駆逐。

6 結び

◇ 調査研究における偶然と必然

◇ 戦後日本社会における、国家 (national) 民主主義、大衆 (mass) 民主主義という「現実」に関する評価

・マス・コミュニケーションの位置づけ

◇ 今後の研究課題

①学説史

・社会的出来事・メディア・世論・研究の相互連関

②文学ジャーナリズム論 (権力論) の試み

・小説・評論、報道・解説・論評の比較